

新鮮な情報を“eye ふれんど通信”でお届け！

昨年度まで、「弱視学級サポートだより」として視覚支援センターから情報をお届けしてきました。このおたよりを、弱視学級の担任の先生はもちろん、児童生徒や保護者のみなさんなど、たくさんの人から読んでもらい親しんでほしいという思いから、この度「eye ふれんど通信」とタイトルを改称しました。新鮮で、役立つ情報を、年度内4回お届けいたします。

もうすぐオリンピック&パラリンピック！



7月26日(金)からオリンピックが、8月28日(水)からパラリンピックが始まります。視覚障がい者の競技は、ゴールボール、自転車、柔道、水泳、トライアスロン、馬術、5人制サッカー(ブラインドサッカー)、陸上、ローイング(ボート)の9競技です(今年は日本からの馬術とローイングの出場はありません)。東京大会では、全盲の木村敬一選手が、水泳男子100mバタフライで金メダルをとりました。

今回のパラリンピックでメダルが期待されるゴールボールという競技について紹介します。

ゴールボールとは・・・

試合コートはバレーボールコートと同じ広さで、ゴールはサッカーゴールと比べ低くて幅が広く、ボールはバスケットボールと同じ7号で鈴が入っており、重さは1.25kgあります。

試合時間は、前半12分、後半12分。1チーム3人で、自分のチームのゴールを守ったり相手のゴールへのシュートをねらったりします。3人のうちセンターは守りのかなめ、左右のウイング2人は攻撃担当です。投球するときは必ずチームエリアとニュートラルエリアの床をバウンドさせなければなりません。また、相手からのボールをキャッチしたら10秒以内に投げ返さなければなりません。

どの方向にボールが来るかの判断は、ボールや人の足音など、音がとても重要です。

音を出すこと、音を消すことのかげひき！

特にオフェンス(攻撃)は、ボールの音をいかに消すかがカギ！

選手たちは、さまざまなテクニックを使って、鈴の音をコントロールします。ボールの速さが時速70キロにもなったり床を大きくバウンドしたりし、多彩なショットを駆使して点数を狙うため、「**静寂の中の格闘技**」と呼ばれます。

現在世界ランクは、日本は現在男子が6位、女子が2位です。パラリンピックでの日本の活躍が楽しみです。がんばれ、ニッポン！



山形市には、「Beggott」というゴールボールのクラブチームがあり、山形盲学校体育館や山形市福祉体育館で活動しています。また、仙台には「コルジャ仙台」というブラインドサッカーチームがあります。

<参考>
日本ゴールボール
協会 Web ページ



弱視学級の児童生徒が交流学習をするときのポイント

弱視学級の児童生徒が、通常学級で交流及び共同学習(交流学習)を行うときのポイントをお伝えします。夏休み明けの指導の際、参考にしてみてください。

- (1) 交流学習は、児童生徒どうしが交流・共同学習を行うことが目的です。よって、交流先の教室で支援する先生は安全確認などの見守りに徹し、児童生徒どうしの自然な関わりに任せることも大切です。児童生徒が迷いながら関わり合ったり、うまくいかないながらも試行錯誤して関わったりして、互いを知るチャンスにもなります。
- (2) 交流学級では、座席をどこに配置するかもポイントです。黒板等が見やすい位置に座席を配置することも大切ですが、気を配ってくれる児童生徒の近くに座席を配置することも効果的です。気を配ってくれる児童生徒には、交流学習の授業開始前に先生から「〇〇さん(弱視学級の児童生徒)が困っていたら、声をかけてあげてね。」と伝え、すぐ弱視学級の児童生徒に「△△さん(通常学級の児童生徒)に頼んでおいたから、困ったら自分で声をかけてくださいね。」と伝えることで、児童生徒どうしの関わりもしやすくなります。この2人が関わりを始めると、他の児童生徒も真似して関わりが広がることもあります。〇〇さんと△△さんの関わりが少しでもあれば、交流学習の最後に、△△さんへ「〇〇さんのサポートしてくれて、ありがとうね。さすがだね！」などと伝えることで、次回以降の自然な関わりにつながっていきます。

このように、弱視学級の児童生徒への声かけだけでなく、交流学習を行う通常学級の児童生徒への声かけも行うと、スムーズな交流学習につながります。

- (3) 体育のボール運動のゲームでは、ゲーム中に味方と相手チームメイトを見分け、ライン、ボール、ゴールやベースなどを同時に見なければならず、弱視の児童生徒は苦手とすることが多いです。

考えられる配慮として、例えばバスケットボールでは、味方チームはビブスを着て、相手チームはビブスを着ないでコートに立ち、ボールは茶色ではなく床面とコントラストが比較的高い青いものを使うことで、弱視学級の児童生徒も取り組みやすくなります。

また、通常のルールでゲームをやりながらも、後半は弱視児童生徒もできるルールの工夫を、児童生徒が考えてやってみることも交流学習です。児童生徒からは、「〇〇さんだけは見えにくいから、ボールを転がしてパスして、パスカットは禁止」など、児童生徒はさまざまなアイデアを出してくれるものです。



- (4) 自立活動の時間に、交流学習での人間関係形成やコミュニケーションに関わる目標を立てたり、その自己評価を行ったりすることで、充実した交流学習となります。

★最新情報★



8月4日(日)に、福島県の勿来(なこそ)海水浴場で「パラサーフィン体験」(参加無料)を行うそうです。

詳しくは、QRコードのリンク先で確認を(Facebook へとびます)。見えない見えにくい児童生徒も大歓迎とのことです。

